

「乳児湿疹からアトピー性皮膚炎・細菌感染の皮膚病と連翹」

大滝 峰光 (福井県 大滝漢方堂)

【はじめに】

赤ちゃんの顔や体に出る湿疹を総称して乳児湿疹と呼びます。食べこぼしや、よだれ、汗などが原因で、赤くカサカサになり、かゆみがあります。中でも多くの赤ちゃんに見られるのが乳児脂漏性湿疹で、生後2週間から1歳くらいまでの間に起こります。

皮脂腺の多い頬や口の周り、あご、額、頭を中心に赤いポツポツが出たり、カサカサしたり、ジュクジュクすることもあります。髪の毛の生え際や眉毛などに、黄色いフケや脂っぽいかさぶたがつきます。

【症例】

4ヶ月 女児

【現病歴】

生後3ヶ月ごろ額の髪の毛の生え際や眉あたりにジュクジュクしたものが見られ始め、徐々に右頬も炎症が起きたように赤く腫れカサカサに。

当初は、保湿剤またはスクアレンを塗っていたがあまり好転せず、時には悪化している状況の為、病院にて診察。小児湿疹と言われ非ステロイド剤を処方される。その後も一時期は良かったものの徐々に範囲が広がり左頬にも症状が出てきた為、再診したところアトピー性皮膚炎と細菌感染と診断を受けリンデロン(ステロイド剤)が処方された。ステロイドを使用すると症状は軽快していくのだが使わないとすぐにぶり返してしまう上、継続使用もしたくない為、漢方を試してみることに。

【治療経過】

まずは、接触性皮膚炎も絡んでいると考え洗濯石鹸を無添加に変えて家族の衣類はそれで洗うことに。また母乳育児のため母親の食事もお油物を控えるように改めた。

また、症状が強いままだと本人もかわいそうな為、医師の指示通りに4日間入院してステロイド治療をしながら漢方薬を飲むことに。入院中は点滴治療(写真1)。

2009.2 下旬 臓腑病 胆 陽証 0.1合 4+ 治頭瘡一方去大黄加桃仁石膏証
煎じて1日約1/5量を飲む

退院後の治療としてステロイド剤を塗るように指示された。お肌は酷い状態を脱したように見えたが、皮膚の状態は悪化する傾向があった。煎じ薬はうまく飲むことができずスポイドを使って少しづつ何とか飲んでいる状態。

退院後数日経過を見ているとステロイドを使うたびに状態が悪化しているように思えたため、入院前よりもお肌は悪化していないのもありステロイドの使用を止め、以前使っていた非ステロイド剤と煎じ薬のみにした。

2週間後にはだいぶ落ち着きだし、3月の下旬には口の周り以外は落ちついた(写真2)。この時点で塗り薬、煎じ薬を中止し、スキンケアのみに。

2009.4 月上旬 糸練功で口の周り状態を確認すると
臓腑病 大腸 陽証 0.3合 3+ 桂枝加黄耆湯加甘草連翹(2.8g)証
煎じて1日約1/4量を飲む

煎じ薬を桂枝加黄耆湯加甘草連翹に変更し治療を継続。この煎じについては自分でストローを使って飲んだ。毎日1回でも継続していると口の周りは綺麗なお肌になっているが、煎じ薬の作りおきが無くなりしばらく飲まない日が続くとまたすぐに発症。そんなことを繰り返しながら徐々に綺麗になっていった（写真3）。

5月中旬、改善が鈍くなったように思われたため再度確認したところ連翹の量を2.8gから3.2gに変更したところ症状がより軽減。

6月にはいると気温も上がり、薬を飲み忘れると口の周りだけでなく肘の内側などにあせもが沢山できやすくなったが、煎じ薬を飲むことで両方ともすぐに軽快した。

2009.7 中旬 糸練功で確認すると

臓腑病 大腸 陽証 6合 3+ 桂枝加黄耆湯加甘草連翹（3.2g）証
症状は安定しながら、1日1/4量のままで継続中（写真4）。

【写真】



（写真1）

（写真2）

（写真3）

（写真4）

【考察】

ステロイド皮膚炎に対し「十味敗毒散加連翹証」が見受けられるように「連翹」を加えることが多い。このケースでも短期ではあるがステロイドを使用したために皮膚の免疫力が低下し、そこに菌が付着したことでステロイド皮膚炎を併発したのだと思われます。連翹には強力な抗菌作用があるだけでなく、化膿による熱をとり排膿する力（特に体の上部の顔の化膿に対してよく働く）があるといわれています。ステロイドを用いることで皮膚の免疫力が低下し菌が付着するだけでなく、化膿も引き起こしているのではないかと考えます。

また、連翹を入れていないと症状は全くひかなかったこと。途中で増やしたことにより更に症状が軽減したことから、連翹の重要性が十分わかった。

【今回使用した漢方薬】

・煎じ薬

治頭瘡一方（去大黄加桃仁石膏）

（連翹 蒼朮 川芎各3、防風 忍冬各2、荊芥 甘草 紅花 桃仁各1、石膏3）

桂枝加黄耆湯（加甘草1.3 連翹2.8~3.2）

ウチダの桂枝加黄耆湯（桂皮 芍薬 大棗各4、生姜1、甘草2、黄耆3）：ウチダ和漢薬